

MEMU レター

2015.5

爽やかな季節となりましたが、皆様お元気にお過ごしでしょうか？

新緑・陽光・そよ風・・・etc 自然から生き物への贈り物のような気がいたします。

■ このところ胃腸障害でのご来院が目立ちます。季節の変化に身体がついていけずに抵抗力が落ちているのでしょう。元氣、食欲があり下痢だけのときはご飯を少な目にして様子を見て下さい。嘔吐したらお水も食事もダメです。詳しくはホームページの「こんなときどうする・下痢嘔吐」をご覧ください。

■ 抜け毛の季節です。いつもよりまめにブラッシングをしてあげて下さい。抜け毛が残ったり、毛玉になったりしていると皮膚病を起こしやすくなります。ブラッシングをしているのに抜け毛が取れない場合はお手入れの道具が合っていないのかもしれませんが、また、毛玉を取らずにシャンプーをするとますます毛がもつれてしまいます。お手入れにお悩みのことがありましたらご相談下さい。

■ ニャンコの父兄へ

この数年、猫のフィラリア症が問題視されています。以下にリーフレットを付記しましたのでご覧ください。

病院の近状報告です

- ・ デジタルレントゲンを導入いたしました。
- ・ 玄関タイル、床をきれいにいたしました。築20年を過ぎアチコチ老朽化が・・・建物のように人間もリフォームできたら良いのにと痛切に思うこの頃です。(院長は64歳、わたくし大野は今年で還暦です)
- ・ 4月1日より新しいスタッフが加わりました。トリマー男子です。人間の美容師さんと違い、トリマーというと女性のイメージが強い男性にはちょっと違和感がありかもしれませんがとても動物に優しい人間です。どうぞよろしくお願いたします。

前任トリマーの長谷川はおかげ様で1月末に無事に男の子を出産いたしました。目下、新米ママは子育てに追われているようです(退職ではなく休職ですので忘れないうでして下さい)。

日々の雑用に追われこうしてMEMUレターで皆様にお目にかかれるのもほんとうに久しぶりとなってしまいました。

次はいつ？ まったく未定ですが、私のなかではMEMUレターは廃刊になっておりません！

爽やかな季節の次にやって来るのは梅雨、そして暑い夏ですが、季節の移ろいを楽しみつつ、毎日をお元気に過ごされますようお願いしております。

2015.5.4 by 大野 曜子



まるつか動物病院

猫のフィラリア症

蚊に刺されることによって感染するフィラリア症は犬の疾病としては大変恐ろしいものとしてよく知られている病気ですが、近年は猫における危険性にも注目があつまっています。

■ どうやって罹るの？ 猫も罹るの？

蚊がフィラリア症に感染した犬を吸血し、体内にフィラリア幼虫を取り込みます。この蚊が次の犬または猫を吸血する際にフィラリア幼虫を送り込み新たな子に感染をおこします。

フィラリアは犬が主たる寄生主ですが猫にも寄生します。地域猫に関する調査では調査対象猫の約10%が感染していたとの報告もあります。

■ 感染するとどうなるの？

体内に入ったフィラリアの生活環は犬と猫とでは違い症状も異なってきます。

猫の主たる症状は・・・

- 慢性の呼吸器症状 - **犬糸状虫随伴呼吸器疾患** とよばれ、フィラリアに対する拒否反応として咳や呼吸困難などの症状が現れます。
- 突然死 - 死滅した虫体が肺動脈に詰まったり、虫体にアナフィラキシーショックを起こしたりして突然死に至ります。

■ 診断・治療は？

犬と違い猫のフィラリア症の確定診断は非常に困難です。従って治療も対処療法が主になります。突然死に関しては対処法がありません。

■ 予防法はあるの？

あります、ごく簡単な予防法が。

すでにお使いいただいている方も多いかと思いますが、当院でお出ししているフィラリアにも効果のあるスポットタイプのノミ予防薬（1本 1470円）を月に1回塗布するだけで予防できます。

感染率が低い、寄生数が少ない、しかも無症状の子が多いことからこれまでは猫の疾病としては重要視されませんでした。

当院でも積極的な予防をお勧めしてきませんでした、近年の報告をみると予防の必要性を感じます。

感染の確立は少なくとも、罹ってしまうととてもやっかいな病気です。ノミ予防を兼ねて、ご自宅で簡単な方法で予防できる病気ですから是非、万が一に備えていただければと思います。

